



四万十町
町内 **ぶらへり** 散策

平 串



そもそも、平串村は「川井村」といった。戦国時代の記録には「河井村」という記載も見られる。さらに、小地名として「平越タ」という文字も見え、これが「平串」となったのではないかと思われる。

また、高知の衰退を食い止めた。そして、高知延伸である。

国道56号線が拡張された頃、その静かな集落にJAの集出荷場が建てられた。これが今日のにぎわいの始まりとも言える。現在のコンビニエンスストアや釣具店のある場所である。その後、JAは現在の場所に移転するのであるが、跡地には、大手電機メーカーの下請け会社の工場が入る。当時の国内は、凄まじい勢いの家庭用ビデオ普及時代。この工場では、ビデオレコーダーに使う基盤の製作が行われていた。当時を知る方のお話では、作っても作っても足りない状態だったという。しかし、ビデオの時代は去り、それに伴い工場も撤退した。地区の衰退が心配されたが、地元で開業したレストランの奮闘や、しばらくしてできた道の駅「あぐり窪川」が、地区の衰退を食い止めた。そして、高知延伸である。



「紅岩さま」は、うっかり見逃してしまいがちなところにある

平串には現在99世帯、186人が暮らしている。

記録の中で正式に「平串村」と出てくるのは、江戸時代初期・元禄になってからである。ただし、ここでも「古者川井村（以前は川井村といたったという意味）」との注意書きがある。平串には「善福寺」というお寺があった。弘法大師が神仏習合を唱えて、五社さんの境内に創建した「福円満寺」の分寺の一つである。江戸時代にはすでに廃寺（退転）しているのだが、現在も跡地にお堂が残っている。また、インターから国道56号を仁井田方面に向かって200mほど行つた道沿いに「紅岩さま」という小さな祠がある。戦国期には、この地域でも小さな戦が絶えなかったため、斬られて命を落とす者も少なくなく、それらの者を弔うために置かれた祠であるという。今も地区の人々から「べにやさま」と呼ばれて親しまれている。

町のうごき	(7月31日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
	男	8,195	-16	男 4	14	8	14
	女	9,125	-23	女 4	15	9	21
	計	17,320	-39	計 8	29	17	35
	世帯数	8,556	-14	(7月中の届出)			
	窪川地域	12,245人	大正地域	2,428人	十和地域	2,647人	

四万十川の
水質状況

	適正值(mg/l)	8月8日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	0.237
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	0.05
化学的酸素要求量	≤ 10.0	測定範囲以下

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信

2018.9月号

Vol.150 (毎月10日発行)

●発行／四万十町企画課

●印刷／窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎ (0880) 22-3124

FAX (0880) 22-3123

UD FONT
by MORISAWA

本文など内容の一部に見やすく読みましがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。